

## 「学生による授業評価」のまとめ 2014 年度春学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会  
委員長 中村 和彦

2014 年度春学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2014 年 7 月 2 日～2014 年 7 月 22 日に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関係 Web ページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

### 1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの 1 科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で 576 科目が授業評価の対象となりました。

② **設問項目** 設問は 20 個あります。設問 1 から 3 までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う項目です。設問 4 から 18 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う項目になっています。設問 19 と 20 は、到達目標に関して問う項目です。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2014 年 7 月 2 日～2014 年 7 月 22 日) → 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2014 年 8 月 4 日) → FD 委員会による自由記述の閲覧(2014 年 8 月) → 教員からの報告書提出(2014 年 8 月) → FD 委員会での結果の分析・検討(2014 年 9 月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2014 年度春学期」の発行(2014 年 12 月)

### 2 集計結果の概要

結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は 99.48% (573/576 科目) でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.35% (461/464 科目)、瀬戸 100% (112/112 科目) でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は 99.83% (596/597 科目) でした。名古屋 99.79% (482/483 科目)、瀬戸 100% (114/114 科目) でした(評価対象科目が、演習科目のうちのいわゆるゼミ、あるいは受講者数が 4 名以下の科目は、学生による授業

評価を実施せず、報告書の提出のみをお願いしています。この分の科目数 21 が、①で示した科目数にプラスされています)。

③ **評定平均値** 設問 1 から 3 までの学生の授業参加を問う項目と、設問 4 以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、設問 4 から設問 18 について平均値を算出しています。なお、過去の平均値との比較を行うために、2014 年度から新たに追加された設問 19 と設問 20 は平均値を算出する際に含めていません。電算処理が行われた 571 科目 (回答数が 4 名以下の 2 科目は、電算処理を行っていません) の設問 4 から設問 18 の評定平均値の大学全体での平均は 4.36 でした。この平均値についての科目数と累積の分布を図 1 に示しました。

電算処理実施科目のうちの約 90%の科目が、設問 4 から設問 18 の評定平均値が 4.0 を超えており (4.0 以下が 8.76%)、さらに約 80%の科目が 4.2 を超えています (4.2 以下が 21.89%)。また今回、設問 4 から設問 18 の評定平均値が 3.0 未満であった科目は 1 科目でした。

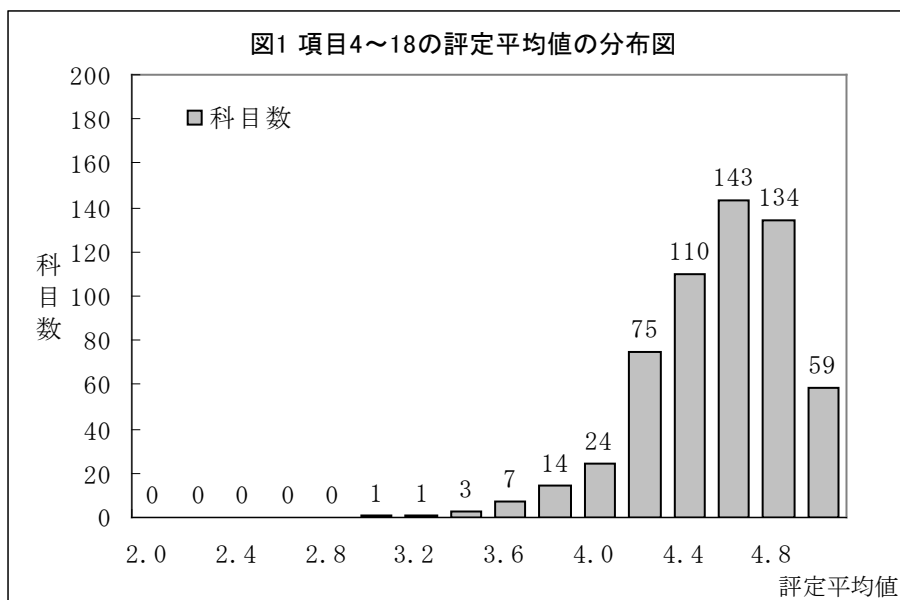


図 2-1 授業への出席

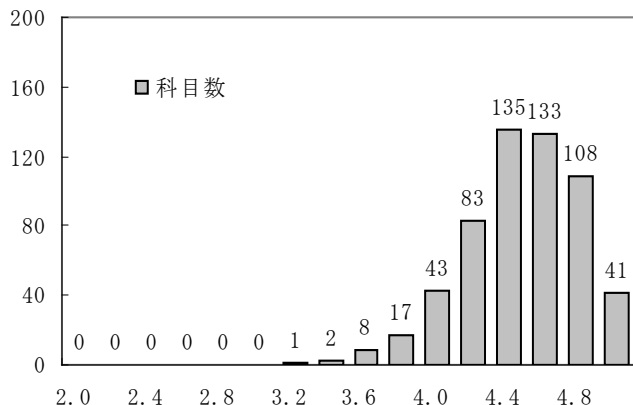


図 2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

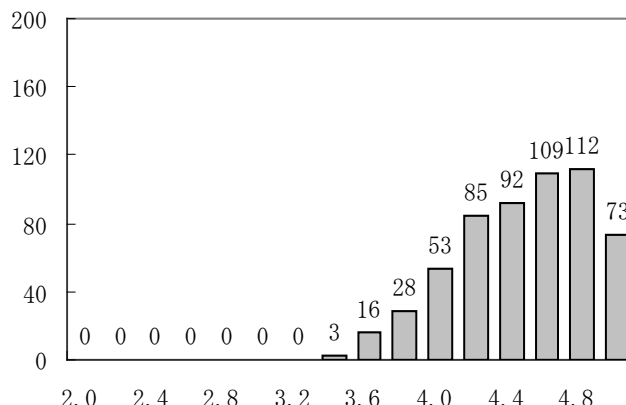


図 2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

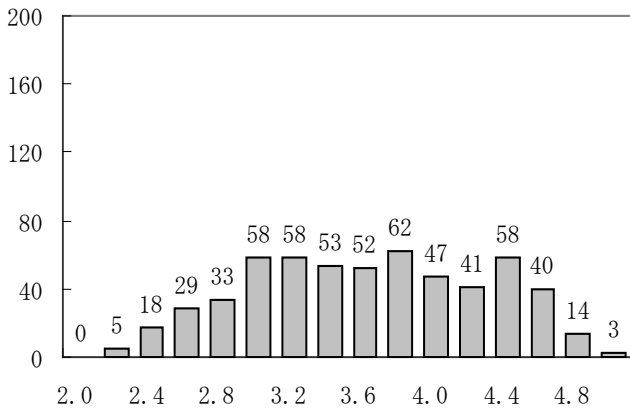


図 2-4 授業時間の厳守

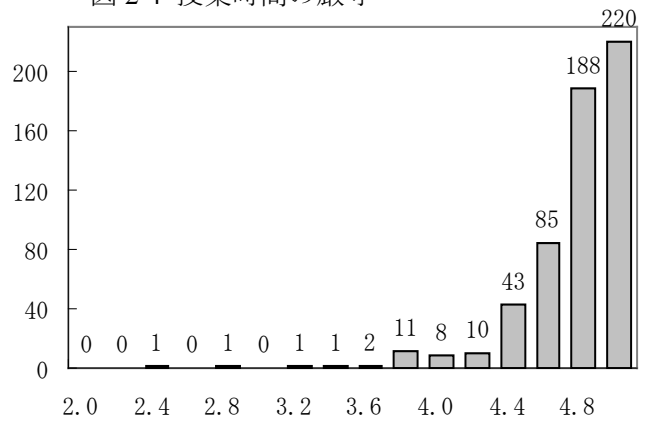


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

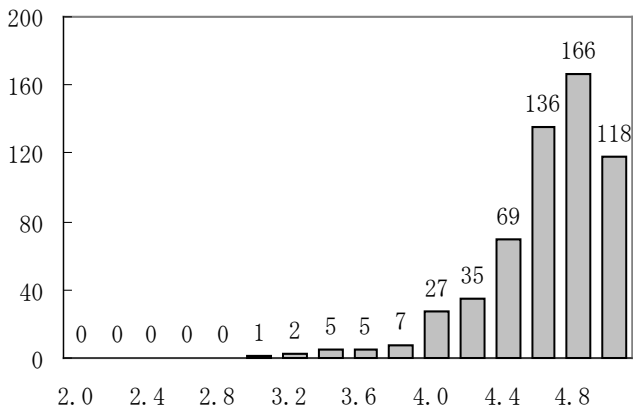


図 2-6 到達目標の明示

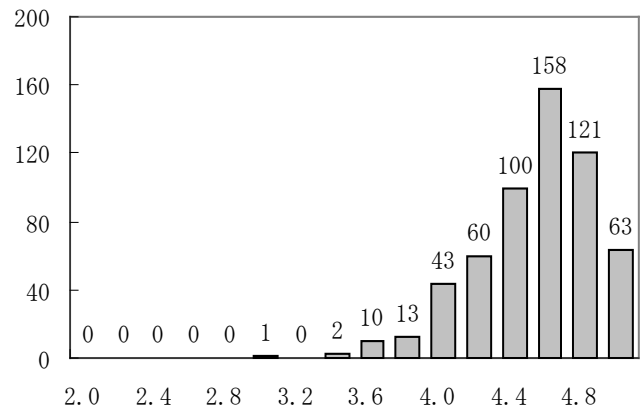


図 2-7 シラバスの有用性

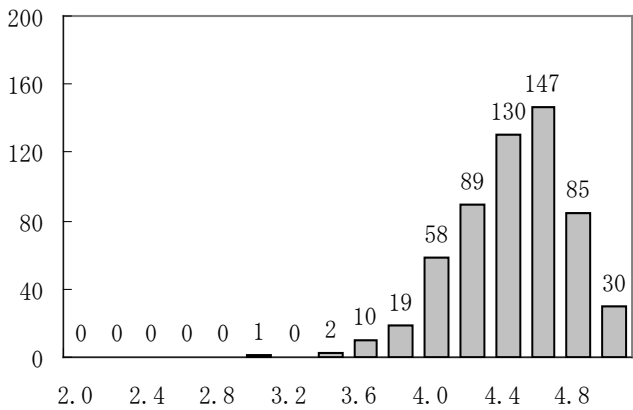


図 2-8 教員の声

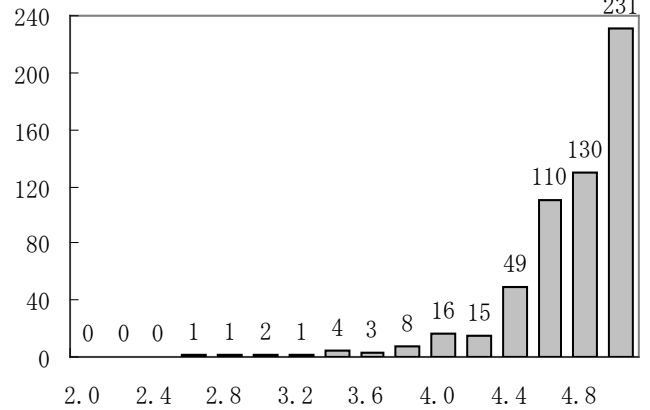


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

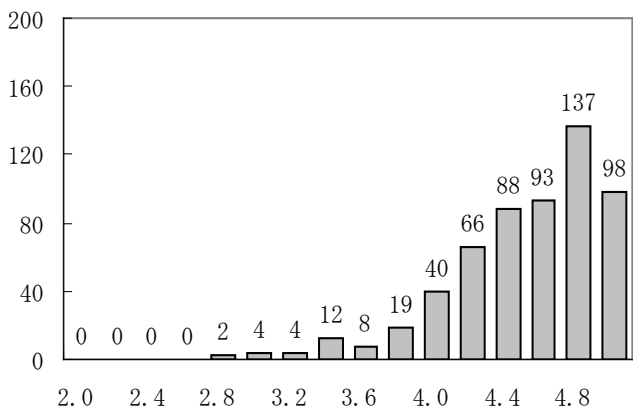


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

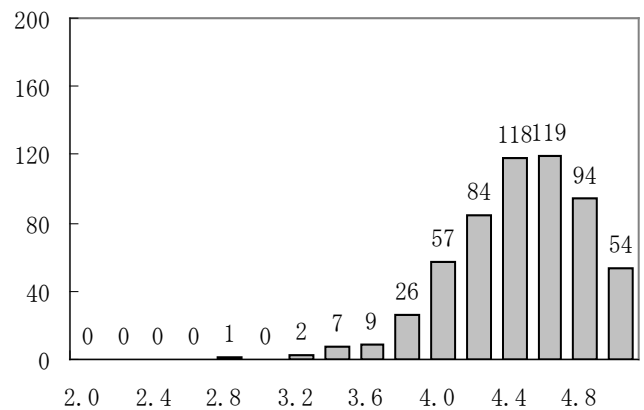


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

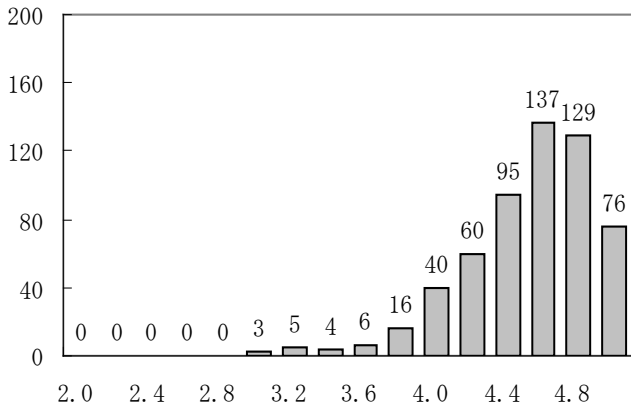


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

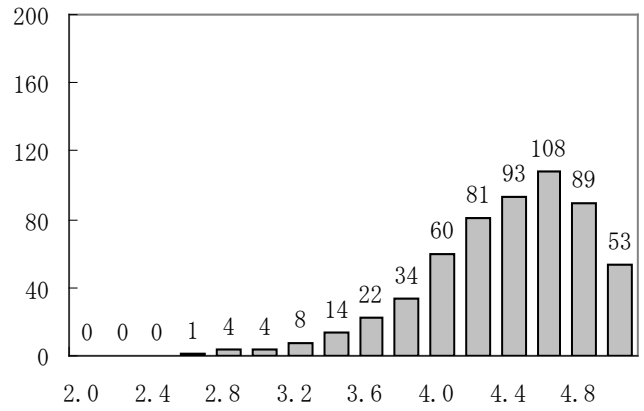


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

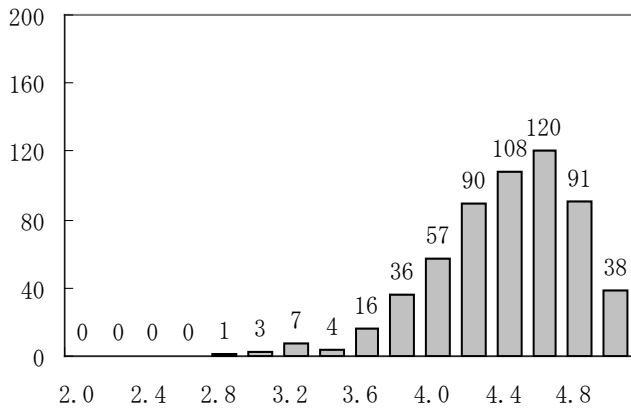


図 2-14 質問や相談の機会

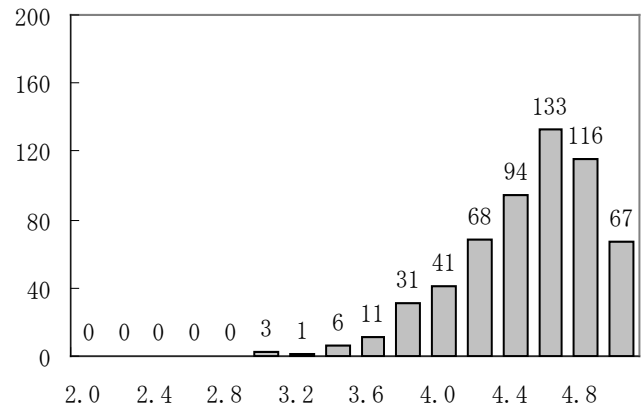


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

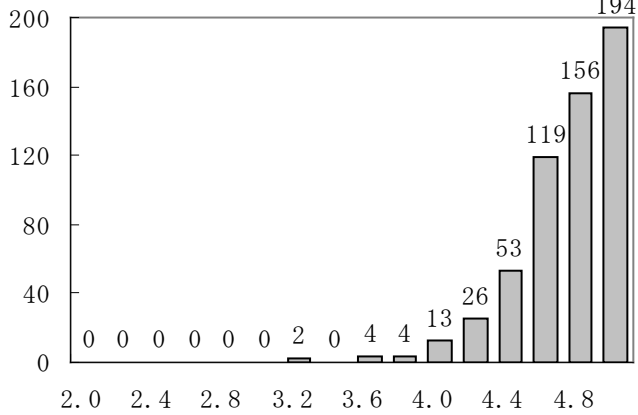


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

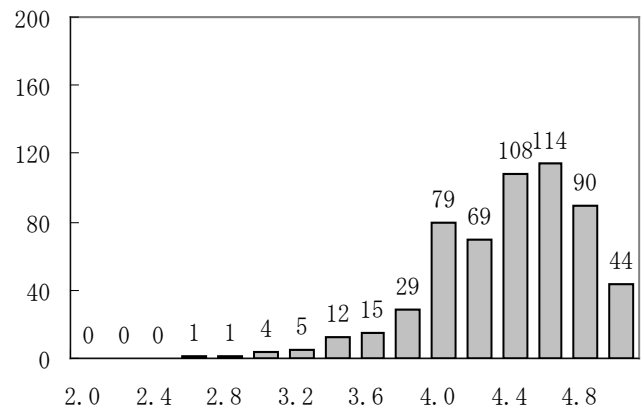


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

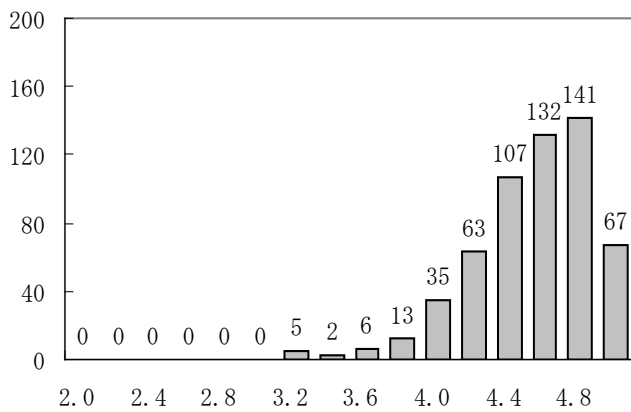


図 2-18 全体としての授業満足度

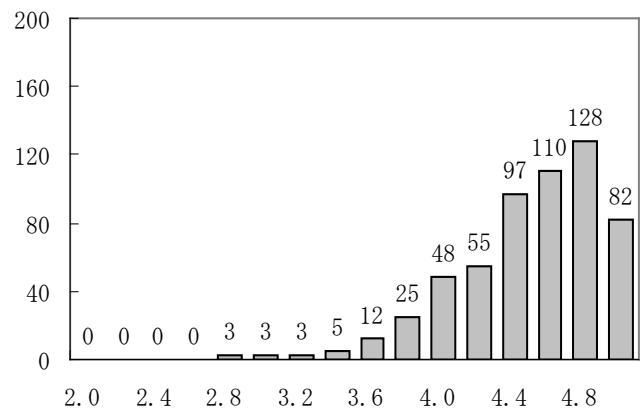


図 2-19 到達目標の達成に向けて授業は進んでいた

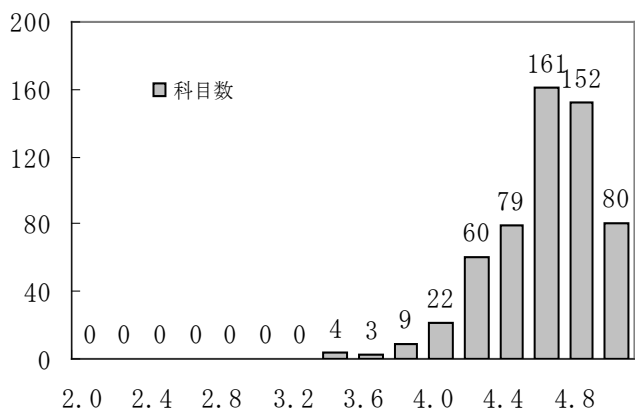
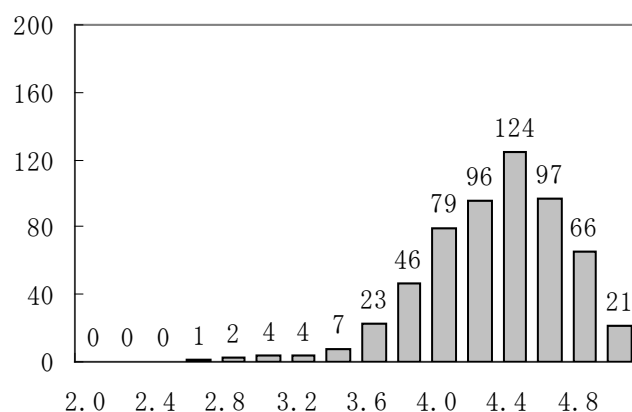


図 2-20 到達目標に向けて力が付いてきている



評定平均値の大学全体の平均が高い設問は、設問 4（授業の開始と終了の時間はきちんと守られていましたか）の 4.64、設問 8（教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか）の 4.59、設問 15（担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか）の 4.58 でした。これら 3 項目のヒストグラムも右肩上がりになっています。ちなみに、これらの 3 項目は、設問項目を現行の内容にした 2006 年度春学期以来、一貫して高い評定値を維持しています。

一方で、評定平均値の大学全体の平均が 4.30 未満と他の項目に比べて若干低めで、かつ、評定平均値が 4.40 未満であった科目が 5 割を超えていた（つまり、比較的低い評定が多い）ものは以下の項目でした。設問 10（私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がなされてきましたか；大学全体の平均 4.26）、設問 12（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すような工夫はありましたか；大学全体の平均 4.16）、設問 13（自主的・発展的に学習を進めることができるように、適切な指導・情報提供がありましたか；大学全体の平均 4.20）、設問 16（この授業に関連する内容に、さらに興味がわいてきましたか；大学全体の平均 4.22）。これらの 4 項目は、2013 年度も同じ基準に該当し、引き続き課題となっているものです。特に設問 12 と設問 13 は、2013 年度秋学期も同じ基準に当てはまっており、学生の学習意欲を引き出し、主体的に学ぶことが可能になるような工夫を行っていくことが、本学における授業改善の課題といえます。

設問 18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は、われわれが最も重視する項目です。今回、この項目の評定平均値は 4.31 でした。80%以上の科目が 4.0 を超えています（4.0 以下が 17.34%）。他方で 3.0 未満の評価を受けている科目が 3 科目ありましたが、全体として、学生の満足度を十分満たしていると思われまます。

ちなみに、2014 年春学期から追加された 2 つの項目の評定平均値は、設問 19（教員は到達目標の達成に向けて、授業を進めていましたか）が 4.50、設問 20（あなたは到達目標に向けて、着実に力が付いてきていると思いますか）が 4.20 でした。設問 20 は、上記の「比較的低い評定が多い」とした基準（評定平均値の大学全体の平均が 4.30 未満、かつ、評定平均値が 4.40 未満であった科目が 5 割を超えている）に該当します。今後、教員の皆さん

が自らの授業について自己点検・評価をする際に、設問 19 や 20 も参照しながら、到達目標の達成に向けた授業運営についてふりかえっていただければと考えています。

### 3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18 の設問で評価を求めるようになったのが 2006 年度春学期からです。以下に紙幅の都合上、最近 9 期分の評定値を表にして示します。

表 1 項目 4 から 18 の評定平均値 (2010 春～2014 春)

年度・学期	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春
全 体	4.28	4.36	4.31	4.39	4.35	4.41	4.38	4.40	4.36
名古屋	4.33	4.39	4.35	4.43	4.37	4.42	4.41	4.42	4.37
瀬 戸	4.13	4.24	4.18	4.30	4.29	4.35	4.29	4.34	4.33

表 2 18 項目ごとの評定平均値 (2010 春～2014 春)

設問項目	2010	2010	2011	2011	2012	2012	2013	2013	2014
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春
1 授業への出席	4.30	4.19	4.30	4.17	4.29	4.21	4.26	4.20	4.37
2 授業への取り組み	4.16	4.14	4.17	4.20	4.21	4.15	4.21	4.16	4.24
3 自主的な学習の実行	3.00	3.02	3.10	3.17	3.19	3.25	3.26	3.27	3.29
4 授業時間の厳守	4.60	4.60	4.61	4.60	4.62	4.61	4.63	4.59	4.64
5 構成や速度が適切	4.41	4.47	4.45	4.48	4.46	4.50	4.50	4.50	4.48
6 到達目標の明示	4.34	4.41	4.37	4.45	4.40	4.46	4.44	4.45	4.37
7 シラバスの有用性	4.24	4.30	4.27	4.37	4.31	4.36	4.34	4.36	4.30
8 教員の声	4.55	4.60	4.55	4.60	4.57	4.60	4.59	4.61	4.59
9 理解度への配慮	4.22	4.33	4.26	4.35	4.30	4.38	4.33	4.38	4.32
10 妨げ行為への対処	4.18	4.26	4.23	4.29	4.24	4.29	4.28	4.28	4.26
11 板書、配布資料	4.24	4.33	4.29	4.36	4.33	4.37	4.34	4.38	4.34
12 意欲を引き出す工夫	4.03	4.13	4.07	4.19	4.13	4.22	4.17	4.21	4.16
13 自主的学習の指導	4.07	4.17	4.10	4.23	4.18	4.26	4.22	4.26	4.20
14 質問や相談の機会	4.21	4.29	4.25	4.34	4.30	4.36	4.30	4.33	4.30
15 教員の姿勢	4.54	4.58	4.55	4.61	4.57	4.60	4.58	4.60	4.58
16 内容へのさらなる興味	4.10	4.19	4.13	4.25	4.19	4.27	4.22	4.26	4.20
17 知識・理解の深まり	4.31	4.37	4.33	4.42	4.37	4.42	4.39	4.42	4.37
18 全体としての満足度	4.24	4.32	4.26	4.37	4.32	4.39	4.35	4.38	4.31

表1は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問4から18の平均値を学期ごとに示したものです。大学全体の評定平均値は、既述のように4.36となりました。これまで、秋学期の評定平均値は春学期のそれよりも若干高いパターンが続き、また、春学期だけを比較すると、過去最高の数値を更新してきました。前年度の同じ学期に比べて、初めて評定平均値が下がったのが2013年度秋学期（評定平均値4.40）で、2012年度秋学期（評定平均値4.41）よりも下回りました。そして今回、2014年度春学期（評定平均値4.36）も、2013年度春学期（評定平均値4.38）よりも下回ってしまいました。表1を見ると、2014年度春学期は、2013年度春学期に比べて、瀬戸キャンパスでは上回っていますが、名古屋キャンパスで評定平均値が下がっていることがわかります。

表2は、9期分の18設問ごとの評定平均値を示したものです。2013年度春学期の平均値よりも低くなったのは、設問5、設問6、設問7、設問9、設問10、設問12、設問13、設問16、設問17、設問18でしたが、それらの項目の中で2012年度春学期の平均値よりも低かったのは、設問6（授業の到達目標ははっきりと示されていましたか）、設問7（授業内容を知る上で、シラバス（授業科目履修案内）の記載は役立ちましたか）、設問18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）でした。設問6の平均値が低くなったのは、これまで「学修目標」という言葉だったものが、今回から「到達目標」という言葉に変更されており、それが影響している可能性があります。また、到達目標について尋ねる設問19と設問20が追加されたことで、到達目標が明示されていたかどうかを学生がアンケート回答時にクリティカルに振り返った結果、設問6の平均値が低くなった可能性もあり得ます。

設問4～18の評定平均値が、特に名古屋キャンパスで下がったと先に述べましたが、名古屋キャンパスではどの設問の平均値が昨年度（2013年度春学期）よりも下がっているのかを検討してみました。その結果、名古屋キャンパスでは、設問4～18について、設問4以外の各設問で、今回の平均値が下がっていました。2013年度春学期に比べて、特に下げ幅が大きい（0.05以上）ものは、設問6、設問7、設問9、設問16でした。瀬戸キャンパスでは、設問4～18について、設問6を除く、他のすべての設問の平均値が2013年度春学期よりも上昇していたことと比べると、名古屋キャンパスで各設問の平均値が下がっていたという結果は非常に気になります。今後の推移を慎重に見守る必要があります。

設問18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は、われわれが最も重視している項目であり、この平均値が2013年度と2012年度の春学期の平均値よりも低くなったという結果を真摯に受け止める必要があります。この設問の平均値が下がった一つの可能性として、設問1～3が上がっていることの影響が考えられます。これら3つの設問の平均値は過去最高でした。つまり、過去に比べて、学生の皆さんがより授業に出席し（設問1）、内職などをせずに授業に取り組み（設問2）、予習や復習などの自主的な学習をした（設問3）と答えていることとなります。この結果を解釈すると、学生さんの学びに対する動機づけが上がったことが、授業への全体的な満足度が低くなった要因である可能性もあります。

いずれにしても、これまでの数年間、設問4から18の平均値や上記の設問の平均値は順調に上昇してきたのが、2013年度秋学期に引き続き、2014年度春学期も、前年度同学期に

比べて評定平均値が下がったという結果に注意をする必要があります。それは、これまで評定平均値が順調に上昇してきましたが、現在は踊り場（停滞期）に入っている可能性が高く、授業をさらによくして評定平均値が上昇するには、これまで以上の授業改善への努力が必要になると考えられるためです。授業改善を推進するためのFD企画や、各单位（学部、学科、共通科目の委員会等）でのFD活動をさらに推進させていく必要があります。

#### 4 回答率について

「南山大学『学生による授業評価』のまとめ」評価報告書において、複数の委員から指摘されていた問題が、大教室での授業で回答率が低い科目が多いことでした。今回を含む過去9期の大学全体の回答率、および、授業規模で4つに分類したカテゴリーごとの回答率の推移を算出しました（表3参照）。

授業の受講者数が多いカテゴリーほど、回答率が低くなっています。また、春学期に比べ、秋学期に回答率が低くなっています。過去の回答率の平均値に比べると、2014年度春学期の回答率の平均値はこれまでに比べて上昇しています。しかし、241名以上の授業と言うカテゴリーでは平均が5割と依然低いです。

筆者は2013年度春学期「学生による授業評価」まとめ冊子の巻頭言で、回答率は出席率と関連があると述べました。2014年度春学期の回答率がやや上昇したのは、設問1の平均値が上昇したこと（授業に出席したと答える学生がやや増えたこと）と関連しているかもしれません。大教室での授業の回答率は低い状態ですので、大教室の授業運営についてFD委員会もサポートしながら、大教室での授業における、学生の出席率を高める取り組みを行っていく必要があると考えます。

表3 回答率の授業規模ごとの平均値（2010年度春学期～2014年度春学期）

	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春
全体	62.3%	55.6%	64.2%	54.8%	64.8%	59.9%	65.9%	60.6%	67.0%
30名以下	84.3%	83.4%	89.2%	82.7%	87.8%	86.9%	88.4%	84.9%	88.7%
31～60名	81.9%	77.6%	83.4%	75.7%	83.1%	77.9%	83.2%	79.6%	84.1%
61～120名	67.5%	59.5%	70.3%	56.6%	67.1%	61.1%	68.5%	60.6%	70.5%
121～240名	59.1%	50.9%	58.3%	48.0%	58.5%	53.0%	59.0%	55.2%	62.2%
241名以上	41.9%	35.6%	46.7%	40.2%	49.1%	42.8%	50.7%	42.3%	50.0%



## 5 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

② **レーダーチャート 2 種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目 1~3 の評定平均値が、3.0 以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

## 6 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、自由記述欄に書かれた各項目を閲覧しています。これは、学生のみなさんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを知るためです。ここで得られた知見については、FD 関連 Web ページ内の、「**授業評価自由記述欄からみる「よい授業」とは**」で公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛りを提供するためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもつなど、改善に向けた具体的な方策を考えています。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。

以上